

宮田小学校 新校舎推進会議だより

市川市立宮田小学校
新校舎推進会議
第4号
令和4年1月18日

昨年度3月、新校舎推進会議で「宮田小学校 建替え事業基本構想・基本計画」が報告されましたが、コロナ禍という社会情勢の変化により新たな課題の検討が必要となりました。学校は長期に亘って児童の教育を担う施設であることから、設計段階に入る前に、コロナ禍収束後の社会(ニューノーマル)を見据えた新しい学校像を整理し、社会情勢の変化による新たな課題への対応を検討する必要があります。

社会情勢の変化による新たな課題

1 学校のデジタルトランスフォーメーション

これまで検討を進めてきた学校 ICT 化への対応に加え、EdTech の活用の具現化や学校運営の効率化など、学校におけるデジタルトランスフォーメーション (DX) の取り組みを検討します。

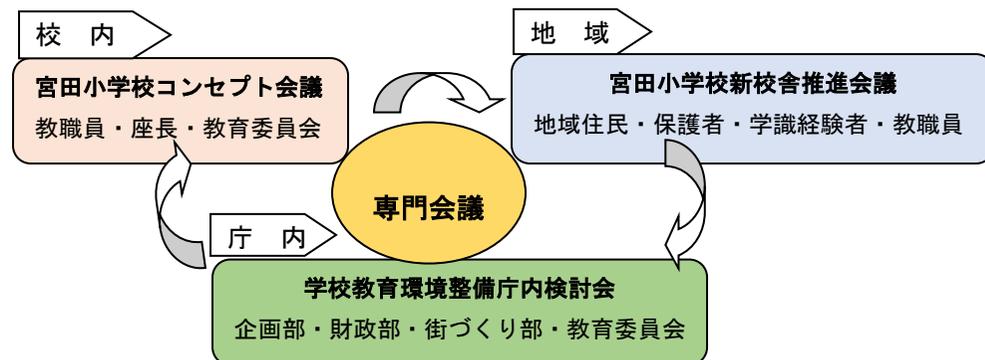
2 学校のカーボンニュートラル

これまで検討を進めてきたエコスクールに加え、「3R」「再生可能エネルギー」「環境材料」等、学校施設におけるカーボンニュートラルの取り組みを検討します。

この新たな課題への対応について、宮田小の「基本構想・基本計画(案)」に反映していくことが重要です。宮田小の建替えは、今後の市川市の学校建替えのモデルになることから、より丁寧な検討が求められます。

以上のことから、令和3年11月29日に新校舎推進会議を再度立ち上げ、協議を継続することになりました。

また、「宮田小学校建替え基本構想・基本計画」は、**文部科学省委託事業「新しい時代の学びの環境整備 整備先導的開発事業」**に採択され、新たに専門家の派遣をいただき、「専門会議」を設置しました。「専門会議」では、専門家と教育委員会及び関係部署で今年度3回の会議を開催し、協議調整を行っていきます。



第6回(令和3年度第1回)新校舎推進会議 概要

- 日時 令和3年11月29日(月) 17:30~19:10
- 場所 宮田小 外国語教室
- 配布資料 第6回宮田小学校新校舎推進会議資料(別冊資料あり)
宮田小学校建替え基本構想・基本計画(案)



【会議概要】

- 座長挨拶
 - 報告
 - これまでの経緯について
 - 新委員の紹介
 - 協議
 - 宮田小学校のデジタルトランスフォーメーションに向けた施設整備について
 - 宮田小学校のカーボンニュートラルに向けた施設整備について
- 【委員の意見概要】 ◇座長または委員 ◆教育委員会事務局
- 宮田小学校のデジタルトランスフォーメーションに向けた施設整備について

- ◆ICT 機器は著しく進化し先を見通すのが困難であるため、更新が容易なものを検討していく。一方、施設や空間については、容易に更新ができないため、ICT の活用による教育の変化を見据え、多様な学習スタイルに柔軟に対応できる施設整備や、家庭では体験できないことを学校で実現できる魅力ある施設整備を計画していく。
- ◇学校関係者の皆様からすると、ICT の活用により学校がどのように変化するか、イメージがしにくいのではないと思う。ICT はツールでしかなく、ICT を活用した学びが、学校運営によりどのように増幅されるかが大切である。新しい学びのために最適な教室の造り方や配置について、建築専門の先生が今までの経験を踏まえ考えてきた。カーボンニュートラルも決して華美な施設ではなく、環境のことを配慮した最先端の技術を、子ども達の学びにどのように活かすかにこだわりたいと考えている。
- ◇ICT 化により、子ども達が主体的に学ぶスタイルが徐々に増えてくると、普通教室、特別教室、オープンスペース等の学校全体の空間の在り方も変化してくる。PC 室や視聴覚室がより高度なメディアセンターに、図書館やそれに関連する視聴覚室等も合わせて新しい学びに変化していくこともある。
- ◇デジタル化は世の中で大きくとり沙汰されているが、今までのスタイルが一扫されるわけではない。タブレットでできることが増える中、子ども達が毎日学校に通い、友達と一緒にいるからこそできる学びを考え、空間を造っていく必要があると思う。
- ◇オープンスペースのある学校では、子どもは自分が一番学習しやすいスタイルを自発的に選び、騒ぐことなく学習をしている。例えば、段ボールなどで仕切ると個別のブースとなり、人気のスペースになる。自由に場所を選ぶ子どももいれば、教室で学習する子もいる。場所だけでなく、学習ツールにおいても、パソコンを使う子もいれば、紙を使う子もいる。デジタルトランスフォーメーションは、タブレットあり気と思われがちだが、子どもが学ぶ空間や、学び方を自由に選べることにあると思う。
- ◇現状のように、一人の先生が35人から40人を管理する仕組みでどのようなことができるか考えなくてはならない。教室を拡張して先生が見える範囲で学習したり、学年で連携したり、教科によっては加配教員を付けるなど、ソフト面のフォローが必要となる。
- ◇習熟度で分ける場合、多目的教室など普通教室以外に学習で使用できる場があると、選択肢が増え学習の幅も広がってくる。インクルーシブの視点では、学校に来られない子や、授業についてこれられない子も、一緒に学ぶためにどのように対応していくかも考えると、空間にも影響してくるが、現実の範囲内で柔軟に空間を考えていく必要がある。
- ◇奇をてらうものを造る必要はないが、教育の変化に対応できるように、先を見据えて、施設の広さは余裕を持ち、柔軟に計画しておく必要がある。簡単にまねはできないが、デジタル化が進んだ学校の事例では、机もJIS規格より大きく、モニターもあるため、教室の広さが1.5倍程ある。
- ◇一斉型の学習は、デジタルトランスフォーメーションが進み、自宅での学習に置き換わることも考えられるが、学校に来たからこそできる学びは普遍的である。工作する時の空間など、学校に来て体験的な学びをする際に、どのような空間とするかを見

れば答えがある。専門性を高めると示してあると、すごい実験器具が導入されるイメージを持つが、小学校での学ぶ場の中に、屋外と連携した空間や、屋外でも屋根付きの学び場など、学習しやすい環境をどのように計画するのかがであると思う。

◇掲げられている目指す姿は今後大切になってくるのではないかと思う。また、公立の建替えは容易にできないため、色々な使い方ができ柔軟に活用できる施設は素晴らしいと思う。

(2) 宮田小学校のカーボンニュートラルに向けた施設整備について

◆二酸化炭素排出量実質ゼロを目指した施設整備・運用を目指し、その取り組みを通じて、児童への環境学習と地域への環境に対する意識の波及を目指した施設整備を計画する。

◇学校のエネルギーは、明るさや、空気の質、温度など室内環境を適正に保つために使用している。コロナの影響で真冬なのに窓を開けながら暖房をしている時期があり、対立する要素がありながらも、どのような室内環境にしたいのかを議論していければいいと思う。

◇学校はオフィスや工場に比べエネルギーの使用量が少ない。省エネにこだわるあまり学習環境がマイナスになるのは本末転倒であり、生活環境の保障を前提としたカーボンニュートラルである。

◇今回の協議でカーボンニュートラルの具体的な事例紹介があるとイメージがしやすい。事務局で検討して欲しい。

◇民間活力の利用とあるが、宮田小学校で民間企業に参画して頂くこともあるのか。

◇設備は整っていても環境学習に生きていない学校もあれば、工夫しているいろいろなカリキュラムに取り組んでいる学校もある。単に設備を整えたからよいわけではなく、様々な仕組みを実際に子ども達が使用しながら学び、学校の省エネ効果が高まっていることもある。大学研究者や、設計者、電力会社などの企業が関わることもある。先生の負担が増えないようにサポートし、環境学習を効果的に進めていく必要がある。

◇造って終わりではなく設計者に関わってもらい学習に反映していく仕組みは必要ではないかと思う。

◇設計事務所はプロであり、技術的な面は任せがちであるが、適切な性能を確保するため、設計施工でも協議をしていかななくてはならない。

◇地域の浸水被害を軽減する雨水貯留槽を検討すると示しているが、現実問題として宮田小学校に雨水貯留槽を設置しただけで、この地域に本当に効果があるのか疑問である。

◇雨水貯留槽は宮田小学校にだけ設置したところで、地域の浸水には微弱な影響である。小さくても構わないので、宮田小学校だけではなく、この地域の他の公共施設にも雨水貯留槽を設置することが、地区の下水道の負荷を減らすことになると思う。

4. 報告

・今後のスケジュールについて

本日の協議結果を踏まえ、12月の専門会議、1月・3月に新校舎推進会議を実施し、所定の手続きを経て、今年度中に基本構想・基本計画の策定を行い、来年度設計に着手する予定である。

第7回(令和3年度第2回)新校舎推進会議 概要

- 日時 令和4年1月13日(木) 17:30~19:00
- 場所 宮田小 外国語教室
- 配布資料 第7回宮田小学校新校舎推進会議資料(別冊資料あり)
宮田小学校建替え基本構想・基本計画(案)

【会議概要】

1. 座長挨拶
2. 報告

○学校施設の事例紹介

- ・ICTを活用した学校教育と学校施設の事例紹介…茨城県つくば市みどりの学園
- ・環境に配慮した学校施設の事例紹介

3. 協議

- (1) 基本構想・基本計画(案)について



【委員の意見概要】 ◇座長または委員 ◆教育委員会事務局

◆前回の新校舎推進会議及び第3回専門会議で頂いた意見を基本構想・基本計画(案)に反映した。【別冊資料参照】

◆主な変更点は網掛けで示してある。近年の社会情勢の変化に対応しながら、これからの時代の担い手として必要な能力の育成に寄与する学校づくりを目指し、整理した。【基本構想・基本計画(案)P11参照】

自分に適した学習スタイルを選択できる学校づくり

+

脱炭素化された施設を体感し、生きた環境学習が行える学校づくり

◆デジタルトランスフォーメーション及びカーボンニュートラルに向けた施設整備に関する基本計画をDX CNと整理した。諸管理室についても、専門会議で頂いた意見を踏まえ、修正している。【基本構想・基本計画(案)P30参照】

◇建物・施設設備といったハード面と、学習環境・ツール・スタイル・手法などソフト面を使いこなすノウハウやスキルが必要である。また、教室以外の空間・スペースの活用方法が重要になってくる。

◇カーボンニュートラルに向けては、パッシブデザイン(日射の調整・昼光の利用・太陽熱利用発電等)、原材料(木材・緑化)、再生エネルギー(アクティブ型対応、教育との連携)などにまとめられる。今回、職員室など諸管理室についても、環境をよくする、気持ちよく働ける環境整備について言及している。

◇ICTについては、先生方のスキルと意識をどう高めていくか。

◇職員室は仕事をする場であり、情報交換の場である。子供たちとかかわりを持つ場であるとともに、個人情報などセキュリティの問題もある。

◇関わっている津和野高校では、既存の管理室を作り替えた。協働エリア・集中エリア・コミュニケーションの場・リフレッシュスペースなどを設けている。リフレッシュして効率を上げ、日本的働き方を変えていくことも提案したい。

◇DXに関して、子供たちの学びがいつでもどこでもできるように。一斉授業でなく、個人が行う活動・多様な学びを、今までの学びに加えて、広げていくことが求められる。

◇校舎の施設設備に関しては、立地、技術要素に加えて、維持・管理という側面がある。誰がやるのか。先生の仕事ではない。フォローアップする仕組みが必要である。

◇エコパネルの使用やビオトープの活用など、環境学習をテーマにコアカリキュラムが必要である。他の市町村でも進めているように、市川市でも環境教育はコアカリキュラムに密接に関連していく必要がある。発達段階に応じて、ICTの上手な使い方を指導できるように新たなコアカリキュラム内に、組み込む。そのお手伝いはできる。

◇環境の重要性を教育に生かすことが必要である。

◆脱炭素化社会に向けての取り組みでは、前回の「ゼロ化」を目指すから、トーンダウンしている。建物のゼロエネルギー化は難しいので、可能な限り二酸化炭素を減らす対応に修正されている。

◇カーボンニュートラルに向けて目標が曖昧である。目標の数値を決めるのが最上位ではないか。そのうえで設計・施工段階で目標を崩さないで守れることが理想的な環境を作ることになる。「0」という定量的な目標を立てて、どうやって高い基準を維持していくか、覚悟を決めるべきではないか。

◇市としての整合性や、他への影響を考慮して、数値を決めて運用することが必要。

◇P34の防災施設が地域住民にとっては関心事である。地下貯留槽は前回からどうなったか。

◆雨水貯留槽は宮田小にだけ設置しても、地域の浸水には微弱な影響である。地域の他の公共施設に雨水貯留槽を設置して分散していけるよう関係課と図っていく。

◇子ども同士の個のつながり、教職員同士のつながりを重視して、コミュニケーションの取れるリラックスできる空間づくりや多目的ラーニングスペース、執務エリアの多様性など、メリット・デメリットを慎重に選んでいく。

◇施設設備を豊かにして、終わりではない。子どもたちや先生方のアイディアでコアカリキュラム作りを、ICTツールの利活用を作り上げて、継続するものである。

◇企業との連携、学校間での機器の活用、宮田小だけの問題でなく市川市として、施設ができる前にソフト面での整備をしていく。

4. その他 第8回 宮田小学校新校舎推進会議 3月22日(火) 17:30~
宮田小 外国語室

